

小学校国語科教育 実技理論研修会 終了報告

テーマ	アクティブラーニングと国語教育	
日時	平成28年8月26日(金)	
会場	恵庭市立恵庭小学校	
講師	青木 伸生氏 (筑波大学附属小学校 教諭)	
参加者	69名	
研修会 の 様子		<p>授業公開は恵庭小学校体育館にて実施。 普段とは異なる場所、初めて会う先生との授業、そして多くの 参観者に囲まれ、4年生の子どもたちも緊張の様子。 そんな子どもたちに対し、青木先生は、授業前のわずかな時 間を利用して、クイズを出しながら、コミュニケーションを図って いました。</p>
		<p>教材は「ウミガメの命をつなぐ」。授業前段は音読指導。まず 1回音読し、次に青木先生に声を届けるにはどうすればいいか を考えながら2回目を読みました。「最後は会場の先生方みな さんに届く声で読んでみよう」と投げかけ、3回目の音読を行うと、 1回目より大きな声で音読できました。相手意識を持った音読 の重要性を学びました。</p>
		<p>本文中にたくさん出てくる「ウミガメ」という言葉が、送信機実 験のために長崎に運ばれてきたウミガメか、ウミガメ一般のどちら を指すのかを区別させるために、実験に用いられるウミガメに、 みんなで「ウミちゃん」と名付けました。</p>
		<p>「ウミちゃん」を指す「ウミガメ」という言葉が、本文中にいくつ 出てくるか、子どもたちに数えさせます。そして、子どもたちから 出された数のずれを動機付けに用い、一つ一つの「ウミガメ」と いう言葉を確認しながら、各段落の要点をまとめていきました。</p>
		<p>授業終了後の講演会では、公開授業を受けて「一口に要約 といっても、『誰に対して要約するか』によって書きぶりが変わる」 ということを教えていただきました。また「雪わたり」を例に、「言 葉を多角的、多面的に精査し、構造化する力を付ける授業を 行うことが大切である」ということを話されていました。</p>